

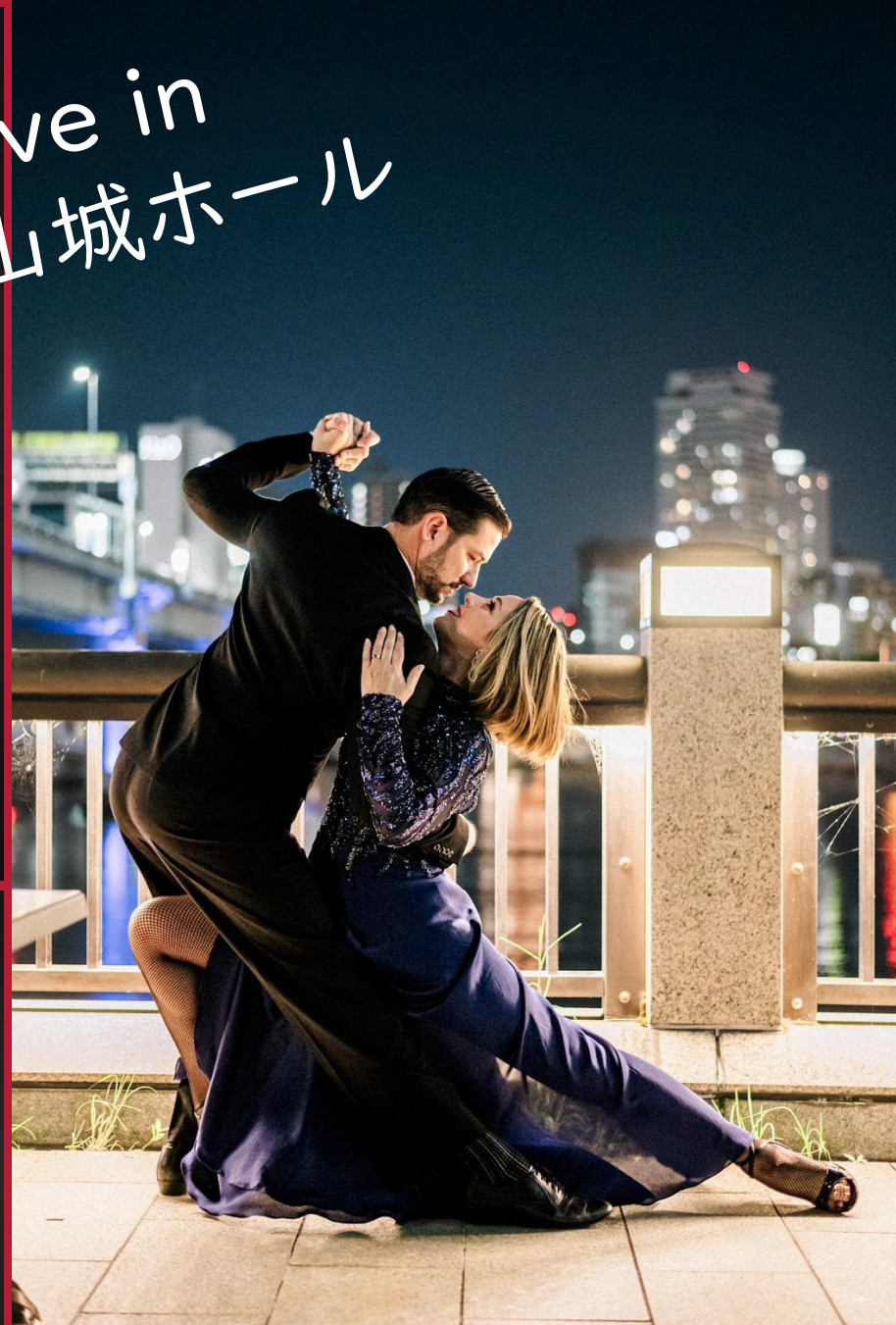
はじめて出会う、本格タンゴの世界

My First TANGO!

古典タンゴからアストル・ピアソラまで、
アルゼンチンタンゴの名曲とダンスに酔いしれる。



Live in
和歌山城ホール



ヴィッレ・ヒルトウラ・トリオ

エルネスト・スーテル / パオラ・クリンガー

2026

9月6日(日)

開場 13:30 開演 14:00
和歌山城ホール 小ホール

全席自由(税込)

一般 1,000円

※未就学児入場不可

高校生以下 500円

発売日

2026年6月10日(水) 10:00~

取扱い

・和歌山城ホール 窓口/電話予約 ☎ 073-432-1212

・オンラインチケットサービス

※無料会員登録が必要です。



〒640-8156 和歌山市七番丁25番地の1 ☎073-432-1212

主催：和歌山城ホール(指定管理者:株式会社ケイミックスパブリックビジネス)

後援：和歌山市・和歌山市教育委員会 制作協力：ハーモニーフィールズ



本場の響きと踊りで味わうタンゴ



ヴィッレ・ヒルトウラ Ville HILTULA (バンドネオン)

9歳よりアコーディオンを始める。フィンランド出身のバンドネオン奏者・タンゴ演奏家。ヨーロッパ各国をはじめ、アルゼンチン、アメリカ、日本、韓国、ロシアなど世界各地で演奏活動を展開し、国際的なキャリアを築いてきた。世界的に知られるタンゴ楽団Carel Kraayenhof y su Sexteto Canyengueのメンバーとして、2005年から2015年までの10年間活動。ソリストとしては、タンゴ・オペラ「Maria de Buenos Aires」に出演するほか、ハーグ・フィルハーモニー管弦楽団、オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団などと共演し、各国の主要コンサートホールに出演している。テレビ出演や、オランダ王室およびグライ・ラマの前での演奏経験も持つ。教育者としても、リエージュ王立音楽院やシペリウス・アカデミーでマスタークラスを担当し、同校初のバンドネオン教師を務めた。現在は日本を拠点に活動中。

高木 和弘 Kazuhiro TAKAGI (ヴァイオリン)

6歳よりヴァイオリンを始め、国内外のコンクールで多数受賞。1997年ブリュッセル・エリザベト王妃国際コンクール入賞、1998年ジュネーヴ国際コンクール第3位（1位なし）など高い評価を得る。国内では文化庁芸術祭新人賞、大阪文化祭賞大賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞録音作品賞を受賞。これまでに和波孝禧、森悠子、エドワード・ウルフソン、エドワード・シュミダーに師事。大阪フィルほか国内外の主要オーケストラと共演。現在、神戸市室内管弦楽団首席コンサートマスターなどを務めるほか、後進の指導にも力を注いでいる。



麓 朝光 Tomomitsu FUMOTO (ピアノ)

6歳よりピアノを始め、15歳より作曲を開始。ピアノをルイス＝フェルナンド・ベレスに、タンゴピアノを大長志野、青木菜穂子、ニコラス・レデスマの各氏に師事。第1回広島作曲コンクール奨励賞、第20回町田市ピアノコンクール市議会議長賞を受賞。2015年8月、フランスで開催されたパブロ・カザルス音楽祭のマスタークラスに参加し、同音楽祭に出演。2016年5月にはイタリア、スペインにて演奏ツアーを行う。現在は、宝塚歌劇団、OSK日本歌劇団、TBSなどのミュージカルやショーにおける音楽制作を手がけるほか、演奏家としても幅広く活動している。

エルネスト・スーテル／パオラ・クリンガー Ernesto Suter & Paola Klinger

タンゴ世界大会のファイナリストが 本格タンゴダンスを披露！

エルネスト・スーテルとパオラ・クリンガーは、2000年より活動するアルゼンチン・タンゴダンサー。ともにブエノスアイレス生まれのポルターニョで、本場の文化の中で育つ。現地の著名な教師やミロンゲーロに師事し、2006年にはタンゴ教育機関ACETAに参加。ブエノスアイレスの主要ミロンガでショーやデモンストレーションを行うほか、タンゴハウスや劇場公演にも出演。2006年・2007年には世界タンゴ選手権などでファイナリストとなる。アルゼンチン国内をはじめ、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各地で公演やワークショップを展開。タンゴ・サロンとステージの双方を重視し、タンゴを単なるダンスではなく、人生そのものを映す表現として伝えている。



情熱のアルゼンチンタンゴ

ブエノスアイレスで生まれたアルゼンチンタンゴは、移民たちの感情や人生を映しながら発展してきた音楽とダンス。鋭いリズム、絡み合う身体、バンドネオンの切ない響きが、喜びや孤独、情熱をそのまま伝える。クラシックからピアソラへと進化し続ける“生きた芸術”。感情を解き放つような力強さが、観る者の心を揺さぶる。



湖畔のフィンランドタンゴ

フィンランドではタンゴは“国民音楽”とも言われ、長く人々に親しまれてきた。北欧の静かな自然や内省的な気質を背景に、ゆったりとしたリズムと美しい旋律が特徴。映画『白夜のタンゴ』にも描かれるように、激しさよりも深い叙情と余韻を大切に、聴く者の心に静かに寄り添う。アルゼンチンとは異なる形で育まれた、もう一つのタンゴの世界。